



▣ ブッダのことば

犀の角

世の中の遊戯^{ゆうぎ}や娯楽や快樂に、満足を感じることなく、心ひかれることなく、身の装飾を離れて、眞実を語り、犀^{さい}の角のようにただ独り歩め。

妻子も、父母も、財宝も穀物も、親族やそのほかあらゆる欲望までも、すべて捨てて、犀の角のようにただ独り歩め。

欲望

欲望をかなえたいと望んでいる人が、もしもうまくゆくならば、かれは実に人間の欲するものを得て、心に喜ぶ。

欲望をかなえたいと望み貪欲^{とんよく}の生じた人が、もしも欲望をはたすことができなくなるならば、かれは、矢に射られたかのように、悩み苦しむ。

足で蛇の頭を踏まないようにすると同様に、よく気をつけて諸々の欲望^{かいひ}を回避する人は、この世でこの執著^{しゅうちやく}をのり超える。

涅槃

たとえば強風に吹き飛ばされた火炎は滅^{ほろ}びてしまって(火としては)数えられないように、そのように聖者は名称と身体から解脱^{げだつ}して滅びてしまって、(存在する者としては)数えられないのである。……滅びてしまった者には、それを測^{はか}る基準が存在しない。かれを、ああだ、こうだと論ずるよすがが、かれには存在しない。あらゆることがら^ががすっかり絶やされたとき、あらゆる論議の道はすっかり絶えてしまったのである。

慈悲

他の識者の非難を受けるような下劣な行いを、決してしてはならない。一切の生きとし生けるものは幸福であれ、安穩あんのんであれ。

いかなる生物生類いきものしょうるいであっても、怯えているものでも強剛きやうごうなものでも、悉くことごと、長いものでも、大きなものでも、中くらいのものでも、短いものでも、微細なものでも、粗大なものでも、

目に見えるものでも、見えないものでも、遠くに住むものでも、近くに住むものでも、すでに生まれたもので、これから生まれようと欲するものでも、一切の生きとし生けるものは、幸せであれ。

老い

ああ短いかな、人の生命よ。百歳に達せずして死す。たといそれよりも長く生きたとしても、また老衰らうすいのために死ぬ。

……夢の中で会った人でも、目がさめたならば、もはやかれを見ることができない。それと同じく、愛した人でも死んでこの世を去ったならば、もはや再び見ることはできない。

……わがものとして執着したものを貪り求める人々は、憂いと悲しみと慳ものおしみとを捨てることがない。それ故に諸々の聖者は、所有を捨てて行なって安穩を見たのである。

……聖者はなにものにもとどこおることなく、愛することもなく、憎むこともない。悲しみも慳けがみもかれを汚たすことがない。譬たとえば(蓮の)葉はすの上の水が汚たされないようなものである。

『ブツダのことば スツタニパータ』(中村元訳)より